



<携帯電話> <スマートフォン>

検索・予約・休館日確認は携帯電話・スマートフォンからできます。

7月の行事

○夏の移動天文台（星の観望会） 移動天文車がくるよ～！

☆日時：7月28日（水）午後7時30分から午後9時頃まで

☆場所：澄川図書館駐車場

☆事前申込み不要。直接会場にお越しください。

☆問い合わせ先：札幌市青少年科学館（TEL 892-5004）

（当日午後5時以降は、携帯090-8908-5796をお願いします。）

※夜遅くなりますから、小学生以下のお子さんは必ず保護者同伴で来てください

雨天・曇天時⇒室内で星座や宇宙のお話、スライドによる宇宙探検、ゲームなど。



○小学生のためのおはなし会（夏休み特別行事）

☆日時：7月24日（日）午後2時から ☆場所：2階集会室

☆お話：「北斗七星」「犬と猫とうろこ玉」他 ☆申し込み不要直接会場へ

◇ おはなしの会

- 7月2日（土）午後2時30分から 1階おはなしのへや
「おひさま」ほか（子供と共に本を楽しむ会）
- 7月9日（土）午後1時50分から 1階おはなしのへや
「かいじゅうたちのいるところ」ほか（おはなしの会「プーの森」）
- 7月16日（土）午後1時50分から 1階おはなしのへや
「おかあさんのぱんつ」ほか（お話の会「コロボックル」）
- 7月23日（土）午前10時30分から 2階集会室
手遊び、読み聞かせ 他

◇ わらべうたとおはなし会 2階集会室

7月8日（金）午前10時30分から
「はりにいとをとおしましよう」ほか（わらべうたと絵本の会「まめつつよ」）

◇ えいが会 2階集会室

7月9日（土）午後2時30分から
「すいかのたね」、「そらとぶねこざかな」（51分）
「すいかのたね」～ばばあちゃんシリーズ。
「ねこざかな」～わたなべゆういちの人気絵本シリーズ。

7月のカレンダー（★印は午後7時まで開館）

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 お話の会
3	4	5 ★	6 ★	7 ★	8 お話の会	9 お話の会 えいが会
10	11	12 ★	13 休館日	14 ★	15	16 お話の会
17	18	19 ★	20 ★	21 ★	22	23 お話の会
24 小学生のためのお話会	25	26 ★	27 休館日	28★ 移動天文台	29	30

◇ 展示 1階図書室

特別展示

「生物多様性って何だ？」

～くまだってホントはこわい！～

身近な野生生物ヒグマとの共生を考える。

（7月14日～7月26日）

≡二展示

「星はどこから来るの？」

太陽系、惑星、星座に関する本を紹介。

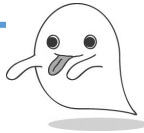
（7月14日～8月9日）

開館時間

★印の火・水・木 …午前9時15分から午後7時まで
金～月・祝日…午前9時15分から午後5時まで



子どもの本



『お化けの海水浴』川端 誠/さく (J/オ)

おばけやしきに住んでいる一つ目こぞうや大にゅうどう、砂かけばあにろくろっ首が、みんなそろっておばけだけではまべにあそびに来ました。海にいるおばけといっしょにたのしい一日をすごします。

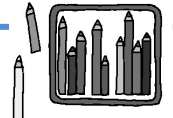
『ルルとララのすてきなパーティブック』

あんびるやすこ/かんしゅう (J59/ル)

『ぼんちゃんはお金もち』

たかどのほうこ/さく (J913/夕)

大人の本



『文房具図鑑』山本健太郎/著 (589/ヤ)

ボールペンに修正液、メモ帳、カラーペン。毎日なにかと使っている文房具について、実際に使って長所も短所もあますところなく紹介。なんと著者は小学生。各文具メーカーも舌を巻いた鋭い観察眼に注目!

『51歳からの読書術』永江 朗/著 (019/ナ)

『65歳で人生を変える』本岡 類/著 (367/モ)

『いのちをむすぶ』佐藤 初女/著 (914/サ)

図書館員のオススメ

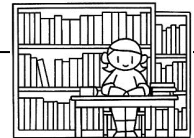
➤ 今月のテーマ「図書館」

『世界の美しい図書館』パイインターナショナル (012/セ)

文明のあゆみとともに建築された世界中の美しい図書館の写真集。日本では伊藤豊雄設計の大学図書館、公共図書館をはじめ10館を紹介。

『夜明けの図書館』埜納タオ (726/セ)

利用者の調べもののお手伝いをする「レファレンスサービス」や「蔵書一斉点検」など図書館の仕事をテーマに新米司書ひなの頑張る日常を描いた人気コミック。



➤ 本にまつわるテレビ番組

『文筆系トークバラエティ〜ご本、出しときますね』(BSジャパン金曜23時30分〜)

本好き芸人若林正恭(オードリー)がMCをつとめ、2名の流行作家をゲストにむかえる爆笑トーク番組。番組最後に作家が紹介する本は図書館の貸出予約がすぐはいります。6月放送『自意識』がテーマのオススメ本は太宰治『きりぎりす』でした。

すみかわ古道に行く ～南さみちの話～(一)

『米セホイ道』 南区の歴史の中から「すみかわ古道に行く」と題して道の話シリーズで紹介します。

第1回目は今からさかのぼること260年前、北海道が蝦夷地と呼ばれていた江戸時代の中頃に澄川付近を通っていた「米セホイ道」(こめせおいみち)の話です。当時、松前藩から蝦夷地の木材伐採を請け負っていた飛騨国の材木商飛騨屋武川久兵衛は、石狩山(現在の恵庭市漁川上流のあたり)で蝦夷檜を伐採していました。その際、石狩川河口の運上屋から木材伐採場所まで必要物資を運ぶための道が「米セホイ道」として絵図に表示されています。

『札幌市立定盤小学校開校100周年記念誌=資料編=』では、常盤の歴史こぼれ話として、岐阜県立歴史資料館所蔵の飛騨屋の伐木図から「米セホイ道」を辿った詳細な解説があります。『札幌市史政治行政篇』にある「石狩山伐木地図」はこの伐木図を元に作成されています。また、北海道大学付属図書館のホームページでは同図模写の細密画像が公開されています。石狩川河口の運上屋から米セホイ道にいたる現在の札幌中心部までは6里(約24km)、そこから豊平川を渡り平岸、澄川付近を通って精進川を渡り、真駒内川沿いに山道に入り伐木場所に向かいました。距離にして約14里(約56km)、米などの荷物を背負っての山道は大変な行程であったようです。また、常盤の歴史こぼれ話では伐採した木材を漁川から千歳川、石狩川河口まで流送により運んだ様子も書かれています。「米セホイ道」は飛騨屋の石狩山伐木事業が行われていた1752(宝暦2)年から1769(明和6)年まで使われていたがその後の記録は見つかっていません。石狩山伐木事業は阿部屋村山伝兵衛が引き継ぎましたが1796(寛政8)年に没落したことにより途絶え、「米セホイ道」もその後の歴史の中に消失していったようです。

【参考】『札幌市立常盤小学校開校100周年記念誌 資料編』K376/サ、『新札幌市史通史1』K211/シ など